
こんにちは、自分のことを書くよ

隆

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

こんにちは、自分のことを書くよ

【コード】

N5426V

【作者名】

隆

【あらすじ】

自分をさらしてみたくなりました。真っ黒で汚いものも全部ね。

自分を見つめてみる。 2

1994年7月14日。

日本に僕は生まれました。

かなりの、難産だったそうです。（母上談。）

それが、今から約17年前のことです。

そして、僕はここまで、たくさんを感じながら、自分なりに生きてきました。

なんとなく、みんなと違うとわかっていましたが。

僕は、物心ついたときに自分で立ち上がることが、できませんでした。

幼かったので、歩くということが、どういうことかわかりませんでした。

僕の周りの人は、僕の事を「可哀想に」だとか「気持ち悪い」などと言っていました。

2

別段、なんてひっかかりませんでした。ボケっとしていましたよ、多分（笑）。

おもえば、なんと凶太いガキだったんだなあと、自分でも笑えます。

その当時、僕がハマっていたのが、三面鏡で遊ぶこと。

鏡のなかで、真似っこしてくる自分が面白くて仕方がなかったんでしょう、一人で笑っていたそうです。

母上様は、僕をきちんと産んであげられなかったと、悔んだそうです。

すが。

親父殿も、絶対に苦勞する、と確信していたそうですが。

そんな事は、正直どうでもよかつたんだよ。

面倒くさかつたんだ、先のことではいちいちくよくよするのは、生きてるだけ、よかつたじゃない？流産じゃなくてさ。

自分を見つめてみる。 3 (前書き)

あーまちがえちゃったよ。ま、いっか。
最初のは、始動予告ってことで。

自分を見つめてみる。 3

それから、しばらくして僕は、保育園Or保育所だっけ？に入れられることになりました。

そんなのどうでもよかったんだけど、つまらなかつたな、うん。

そこで、保育士だっけ？の先生に（僕の世話係だった）、しつけどいう名の、横暴を押しつけられることになりました。

正直、クソ迷惑だった。うっぜーよ。糞ババア。何でいきなり頭殴られなきゃならないんだ。

子供ながらに、それがギャクタイじゃないかと思ったことさえありました。

そして、大人って汚いんだ、鬼だ、鬼しかこの世にいないんだ。と思いました。

便所で殴られたこともありました。げんこつじゃなくて、平手でパーン！

けっこう痛かった。腫れてきていましたよ、はい。

その先生は、なんてゆうか、自分のストレスを僕にぶつけてきていたのでした。足が悪いし体が弱くて手がかかるから。

ルームメイトの子たちともなかなか馴染めず、苦しみました。いっしょに走ったり運動したりできなかつたからです。

他の先生は、気にかけてくれましたが、その人がいる手前、表立って動けなかつたのでしよう。

ごめんなさい、保育園なんかに入園して、迷惑でしたよね？迷惑な
子で、すみませんでした。

なんせ、役所にいったら、支援学校に入れてください、（保育園側
も僕を受け入れるのは拒否していたから）の一点張りだったので
した。

ただ、僕も、僕の親もそこら辺にいる子どもとおなじように過
したかっただけなんです。

自分を見つめてみる。 4

にしても、保育園っていう、子供の集まりは残酷でした。子供って邪心がないだけに、もう言いたい放題で……

「なんで、片方の足動かないの〜？」とか聞かれても、こっちだつて原因不明で、成り行きでなっちゃったんだから、解んないっての！

「わからないのっ」って僕が答えると、「ふーん」か「えー変なの、おかしいよ」って返ってきます。

と同時に、先程出てきた、某保育士の先生による平手打ちや、その他諸々。

両親のけんかや、自由に動けないことへのストレスなどが重なって、体調は最悪、精神面でも不安定になったりしていました。

僕と両親は、特別な事情で、母方の祖父母の家に仮住まいしているので、

(両親で建てた家が、あるのにもかかわらず)

祖父母がちよいちよい、愚痴を聞いてくれるのがとてもうれしかったです。

両親と祖父母も共働なので本当にちよつとしたときだけでしたが、

そのせいか僕は、自分の感情を抑え込む方向に走ってしまつたように、訳もわからないのに涙が出たり

ホントの気持ちを表に出せなくてイライラしたり、自分の体を傷つ

けてしまつようになりました。

それは、年を追つごとにエスカレートしてきていて、自分ではもうどうすることもできません。

あと、このころから 他人や家族の目を見るのがすごく怖くなりま
した。

顔色をつかがって、過ごす毎日です。

自分を見つめてみる。5（前書き）

更新が。。。遅くなりました

自分を見つめてみる。 5

小さかったころ、僕が特に心苦しい思いをしていたのが、親や親せきの人からの自分に対する評価に関してです。

例えば、今まで一人でできなかつた事が、頑張つて努力して出来るようになった、としましょう。

「僕ね、今日ね、〇〇が出来るようになったんだよ」と僕が両親に伝えたとして……

「そんな簡単な事が、今までできなかつたの？他の子なんてそんなの簡単にできちゃうから、大した事じゃないじゃないか、もっと頑張りなさい」と返ってくるのです。

その時僕は、（喜ぶ顔が見たいから、もっと頑張つてフツの子たちみたいにならなきゃ！）

と思つてがんばりました。よく頑張つた！と言つてもらいたい、喜ぶ顔が見たい、その一心で。

怪我もたくさんしたし、周りからもたくさん笑われました。

（笑わないでほしいな、こっちは真剣なんだぞ！）

でも、いくら頑張つても、両親からは「頑張りなさい」としか返つてこないの、これは、ひよつとしたら生返事、というやつではないか？と小さいながらに思つてしまう事さえありました。

そのうち、頑張る事が苦痛になつてくるようになります。

「いとこの〇〇ちゃんはできるのに、あなたは、こんなこともできないの？」と怒声を飛ばされるようにまで、なってしまったり

同世代の子から、からかわれ、いじめられ、

苦痛のあまり、自分の殻にひきこもったことも・・・教育機関にはきちんといきました。

(単に僕自身が、ダメ人間なだけかもしれないが)

そうすると今度は親せきなどから、遠巻きにされる結果に・・・)
当然と言えば当然ですね)

ヒトの期待に答える事は、多分、僕には、、、、ムリ?
ですね。。。(笑)

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5426v/>

こんにちは、自分のことを書くよ

2011年10月9日05時11分発行